Masahiko ASAMI: A Constitutional Anthropological
Study of the Inhabitants of Suhō District,
Yamaguchi Prefecture, Japan

周防地方住民の体質人類学的研究

日本医大衛生学教室（指導 古屋芳雄教授）

浅 見 正 彦

I 周防国及び測定地の沿革

古屋教室では、30数年来国内の56地方における土着住民の体質人類学的研究を行つて来たが、本研究はこの一環として、山口県の東南部周防地方のうち、比較的他地方との人種的交流の少い都濃郡鹿野町を中心とした住民の生体測定を行い、これを他地方人と比較検討したものである。

古事記等の所伝に従えば、第10代の崇神天皇の時、阿岐国造の同祖金波佐彦の孫豊玉根彦命を与之岐国造に任ぜられたといわれ、防長（周防長門）の地は、ようやく大和朝廷の勢力下に入つたようである。ついで第12代の景行天皇、第13代の成務天皇の時熊襲が叛したため征伐の軍が再三進められているが、それによつて海岸沿いの地は開発されても、山間部にある都濃郡一帯には未だ及ばなかつたと思われる。第15代の応神天皇の時、茨城国造の同祖加米之意美を周防国造に任じ、ついで第16代の仁徳天皇の時、紀臣の同祖都怒足尼の兄田島足尼を都怒国造に定めたと伝えている。このころまでに周防の奥地も、ようやく開かれたのであろう。第36代の孝徳天皇の大化2年、それまで国造が世襲私有した土地人民を、ことごとく公地とし、地方の行政区画として、新らしく国都里の制を設けたが、大島・都怒・周芳・与之岐の四国造の地は併せて周芳の国とされ、国府を佐婆（防府市）に置いた。のち奈良時代になつて、周芳の字

を周防に改めたが、第42代の文武天皇の元年、周防の国が饑饉に見舞われたので、免税賑給を図つたと見えるのも、国吏の上では初見である。

鹿野町は、徳山の北七里、大潮川の水源地で、中国山脈東辺、寂地山系が西走する衝にあたり、今日都濃郡にぞくする。四囲は、千米級の山に囲繞され、特に北方の島根県境は、周防の屋根と称されて、標高320米の鹿野盆地の中心地である。地殻の構成は、大部分火成岩で、古生代の石炭紀から2畳紀にかけての地層であり、いわゆる山口変成岩類と山口層部と呼ばれて、秩父系に属するもの、中世代の白亜紀の花崗岩及び古第3紀層の蛇紋岩等とから成つている。都濃はおく都乃又は都怒に作り、角国の内であつた。紀角宿禰が住んでいたので、この名が起つたともいわれるが、国郡里が設けた時、角国の旧域は、都濃、佐波、吉森の三郡に分けられて、周防に合併せられたという。国造本紀には、「都怒国造難汝寒津朝、紀臣同祖、都怒足尼見、田島足尼定賜」とあり、都怒足尼の事は前述したように記紀にも見えている。又新撰姓氏録には、「角朝臣、紀朝臣同祖、紀角宿禰く後世」とあり、紀角宿禰の後裔は、古代前期に、今の佐波郡の辺を根拠にした豪族であつた。とすれば都濃は、紀角宿禰によつて開かれたように考えられるが、雄略天皇紀によると、紀角宿禰は、新羅征伐の功によつて、この地

第 1 図

を賜わつたと伝えている。すなわち大和朝廷の勢力がこの地に及んだ結果、天皇に従う紀角宿禰は、この地に定着し、その後裔は豪族となつてこの一帯を支配したもののようである。いずれにしても、都濃の地にはどのような先住民が住んでいたか明らかではないが、大和朝廷が全国統一を完成した四世紀の半ばごろまでに、その勢力下に入り、古代前期には紀角宿禰の支配する地であつたといえる。

古代の後期に、周防の地には、多くの荘園が開かれ、或いは東大寺大仏殿を復興した重源などの僧によつて、文化的にも開発され、瀬戸内海の交通が盛んになるにつれて、しだいに意義を加えていた。古代の末期、源平の戦があつた後平家の残党は多数この地方にかくれ、奥地を開拓して住みついたと伝え、近郷に、平家に縁のある地名や山名が多数残っている。降つて戦国時代には、大内・陶・毛利に支配されたが、とくに大内氏のころは、その中心地山口は、小京都といわれて中央の人士が来住じ、又、日明貿易の結果として外国人の来航する者が少くなかつた。かくして山口の地は単に城下町としてばかりでなく、西国文化の中心として栄えたことは、周防の歴史を考える上で忘れてはならないことである。

今回計測を行つた鹿野町一帯、すなわち周防山間部について推察すれば、山陽道島田川（現在山口県光市）を遡つて、三瀬川、根笠を発見し、更に登つて高原地区を拓き、狩猟や川漁などおしながら土着したが、又は岩国海岸から錦川を遡り、高山地帯に達して、農耕

地を開墾したか、或いは山陰地方の島根県側から中国山脈を越えて入つて来たなどの道が考えられる。

ところで今日この地方の神社の神楽は、多分出雲系の影響を受けており、道は峠を越えても、山陰側の方が便利である。したがつて、鹿野町一帯は、山陽、山陰の両方の影響を受けていたと思考せられるのである。

本調査は上述の周防山間部の中心地鹿野町を中心に行つたが、文献の示唆にとらわれず、この地方住民の体質人類学的特徴を明らかにし、可能ならばそれがどの程度に歴史的関係を反映しているかを見ようとしたものである。

II 計測条件と項目及び計測法

この計測の目的からして、最近の寄留者及び一見してあきらかな体質異常者や一定不動の姿勢を保つていらぬ者を除外し、いわゆるこの土地の「地付の出」で、両親は勿論のこと、祖父母、曾祖父母にいたるまで三代以上にわたつてこの地方の出身者に限つて測定した。これは發育途上の少年や老化現象のおきつつある年令をのぞき、満 20 才より 50 才までの成年男子をえらんで測定した。その人員は 565 名である。このほか 325 名の成年女子もあわせて測定したが、他地方人との比較検討には、成年男子の測定値のみを使用した。体型比較の基準として使用した諸測度は、古屋教室で古くから採用しているものに限つた。すなわち、R. Martin 及びその他多くの体質人類学者の使用した形質種目から、13 型質を直接に、3 型質を間接に測定した。又これより 11 種の比率と指数を算出し、計 27 項目について比較分析し検討した。その 27 項目を次にあげる。

○直接測定項目 (13)

1. 身長	5. 中指尖端高
2. 耳珠高	6. 腸骨前上棘高
3. 胸骨上椽高	7. 肩巾
4. 肩峰高	8. 頭最大長

9. 頭最大巾 12. 下頭角巾
10. 最小前頭巾 13. 形態顔面高
11. 顴骨弓巾

○間接測定項目 (3)

14. 耳頭高 = 身長 - 耳珠高
15. 全上肢長 = 肩峰高 - 中指尖端高
16. 全下肢長 = 腸骨前上棘高 - 身長により一定数

○比及び指数 (11)

17. 比上肢長 = $\frac{\text{全上肢長}}{\text{身長}} \times 100$
18. 比肩巾 = $\frac{\text{肩巾}}{\text{身長}} \times 100$
19. 比頭長 = $\frac{\text{頭最大長}}{\text{身長}} \times 100$
20. 頭長巾指数 = $\frac{\text{頭最大巾}}{\text{頭最大長}} \times 100$
21. 頭長耳頭高指数 = $\frac{\text{耳頭高}}{\text{頭最大長}} \times 100$
22. 頭巾耳頭高指数 = $\frac{\text{耳頭高}}{\text{頭最大巾}} \times 100$
23. 頭巾前頭巾指数 = $\frac{\text{最小前頭巾}}{\text{頭最大巾}} \times 100$
24. 頭巾顴骨弓巾指数 = $\frac{\text{顴骨弓巾}}{\text{頭最大巾}} \times 100$
25. 顴骨弓巾前頭巾指数 = $\frac{\text{最小前頭巾}}{\text{顴骨弓巾}} \times 100$
26. 顴骨弓巾下顎角巾指数 = $\frac{\text{下顎角巾}}{\text{顴骨弓巾}} \times 100$
27. 形態顔面指数 = $\frac{\text{形態顔面高}}{\text{顴骨弓巾}} \times 100$

数値取扱法及び計算法は古屋によつた。そのうち主な記号，計算法は下記の通りである。

1. 人 員 N 2. 算術平均 M
3. 標準偏差 σ 4. 変異係数 V

5. m, M の平均誤差

6. 型差 (T.D) 及びその平均誤差 m (T.D)

$$T.D \pm m(T.D) = 10 \left(\frac{1}{\sigma_1} + \frac{1}{\sigma_2} \right) (M_1 \sim M_2)$$

$$\pm 10 \left(\frac{1}{\sigma_1} + \frac{1}{\sigma_2} \right) \sqrt{m_1^2 + m_2^2}$$

7. 平均型差 (M.T.D) 及びその平均誤差 m (M.T.D) M.T.D $\pm$ m (M.T.D)

$$= \frac{\Sigma \left(\frac{20}{V_1 + V_2} \left(\frac{1}{\sigma_1} + \frac{1}{\sigma_2} \right) (M_1 \sim M_2) \right)}{\Sigma \left(\frac{2}{V_1 + V_2} \right)}$$

$$\pm \frac{\Sigma \left(\frac{20}{V_1 + V_2} \left(\frac{1}{\sigma_1} + \frac{1}{\sigma_2} \right) \sqrt{m_1^2 + m_2^2} \right)}{\Sigma \left(\frac{2}{V_1 + V_2} \right)}$$

(6. 及び 7. は古屋の修正による)

III 軀幹四肢に関する研究成績

軀幹四肢に関する測定成績を一括すると次の第 1 表の様になる。

1. 身 長

身長は昔より人類形質の一指標として重んじられている。しかし、生活環境により除々に平均値が変化することも周知の事実である。だが身長は無限に変化するものではなく、日本人なら日本人としての一定の限界がある。そこに身長の人類形質としての意義がある。また、他の計測に比較して、変異係数 (V)

第 1 表 軀幹四肢の計測値及び指数値
(周防地方人 N=565)

形 質	M $\pm$ m	σ	V
身 長 (cm)	159.98 $\pm$ 0.22	5.32	3.33
耳 珠 高 (cm)	146.92 $\pm$ 0.22	5.27	3.59
胸 骨 上 縁 高 (cm)	130.92 $\pm$ 0.22	5.30	4.04
肩 峰 高 (cm)	132.50 $\pm$ 0.22	5.20	3.92
中 指 尖 端 高 (cm)	60.83 $\pm$ 0.16	3.86	6.35
全 上 肢 長 (cm)	71.73 $\pm$ 0.13	3.12	4.35
比 上 肢 長 (%)	44.22 $\pm$ 0.08	1.96	4.43
腸 骨 前 上 棘 高 (cm)	90.65 $\pm$ 0.19	4.48	4.89
全 下 肢 長 (cm)	87.21 $\pm$ 0.16	3.89	4.46
肩 幅 (cm)	36.22 $\pm$ 0.09	2.11	5.99
比 肩 幅 (%)	21.98 $\pm$ 0.07	1.55	7.05

が小さく人類形質の価値は大きいと考えられる。

周防地方人の身長の平均値は 159.98cm で、予想外に小さく、生体測定班計測の、日本人男子平均 160.24cm より小さい。周防人女子は 147.04cm である。

第 2 表の Martin による身長分類表を見て、も小の部に 51.49% 入り、日本人としても中

第 2 表 身長分類表 (Martin による)

分 類	甚小	小	中の下	中	中の上	高
身長 (cm)	130.0 ~ 149.9	150.0 ~ 159.9	160.0 ~ 163.9	164.0 ~ 166.9	166.0 ~ 169.9	170.0 ~
	%	%	%	%	%	%
周 防	6.51	51.49	19.01	13.41	7.28	2.30
因 幡	0.20	13.44	26.09	22.53	20.16	17.58
備 中	2.42	36.19	29.40	16.48	9.53	3.52
高 千 穂	3.88	47.47	26.22	14.56	4.27	3.30
始 良	1.76	36.27	27.50	18.50	9.25	6.32
播 磨	3.17	34.45	24.21	17.32	12.10	8.75
高 麗	5.12	41.93	26.97	14.96	6.89	4.13
出 雲	2.35	41.88	26.33	15.61	8.24	5.56
巨 摩	5.53	42.99	27.27	14.63	7.51	2.77
信州上伊那	1.80	39.00	28.80	15.00	11.40	4.00
庄 内	3.59	42.58	29.85	13.70	7.18	3.10
信州飯田	1.00	33.50	25.50	18.50	15.00	6.50
加賀平地	3.01	44.15	27.54	14.40	7.38	3.53
大 和	0.55	35.98	28.73	16.51	10.84	7.39
日 立	3.33	47.00	26.50	13.78	5.50	3.89
能登南部	4.13	48.32	26.86	10.79	6.92	2.98
信州安曇	1.70	36.49	29.49	17.58	9.07	5.67
三 宅 島	4.00	32.80	31.20	17.60	8.80	5.60
八 丈 島	1.79	45.90	28.46	14.18	6.67	3.08
加賀山地	3.89	51.11	27.22	11.39	3.89	2.50
越後東蒲原	3.99	56.33	22.53	12.44	2.82	1.89
磐 城	1.89	48.67	24.81	12.88	7.21	4.55
岩代熱海	3.67	50.53	25.70	13.60	3.50	2.97
千葉中部	0.55	32.29	28.26	19.08	13.21	6.61
北部信州	0.50	26.41	29.91	19.76	14.28	9.14
奥 能 登	5.52	52.14	23.97	11.29	3.96	3.13
土 佐	0.00	42.00	33.33	14.67	8.67	1.33
越 中	3.88	60.00	21.66	7.77	3.88	2.77
飛 彈	4.11	57.78	21.92	9.96	5.11	1.12
埼玉東部	3.80	40.00	23.80	15.20	7.20	5.00

以下の身長である。全般的にその分布状態は、加賀山地、奥能登、岩代熱海人に類似している。身長そのものでは、土佐人の 159.77cm 加賀平地人の 160.28cm に近い。女子の 147.04cm も小さい部に入る。古屋修正の型差公式により、身長の型差 (T.D.) を算出したが、この型差による他地方人との親近度を見ると第 3 表のように、土佐人 T.D. 0.79, 高千穂人の 0.89, 加賀平地人、能登南部人の 1.10 などに近親度が高い。地域的には近い因幡人と T.D. 12.99 と云う様に近親度がうすいことは面白いことである。出雲人、備中人と 3.52,

第 3 表 身長に於ける周防地方と他地方人との型差

各 地 人	M ₂	周 防 地 方 人 159.98±0.22	
		M ₁ ~M ₂	T.D.±m (T.D.)
埼 玉 東 部	160.44	0.46	1.68±1.19
加 賀 平 地	160.28	0.30	1.10±0.89
出 雲	160.93	0.95	3.52±0.96
備 中	160.93	0.95	3.52±1.18
土 佐	159.77	0.21	0.79±1.25
信州上伊那	161.29	1.31	4.91±1.36
能 登 南 部	159.68	0.30	1.10±0.95
山形村山盆地	159.54	0.44	1.61±1.14
巨 摩	159.50	0.48	1.79±1.48
白 川	159.44	0.54	2.01±2.13
信 州 安 曇	161.65	1.67	6.30±1.45
加 賀 山 地	159.24	0.74	2.78±1.34
大 和	161.95	1.97	7.29±0.96
対 島	162.03	2.05	7.79±2.15
日 向	158.99	0.99	3.74±1.03
奥 能 登	158.94	1.04	3.76±0.98
北海道アイヌ	159.02	0.96	3.87±1.73
飛 彈	158.66	1.32	4.99±1.07
信 州 飯 田	162.39	2.41	8.99±1.64
越 中 (婦負)	158.50	1.48	5.52±1.33
越 中 (礪波)	158.41	1.57	5.92±1.69
因 幡	163.40	3.42	12.99±1.21
熊野川流域	160.52	0.54	1.91±1.17
始 良	161.68	1.70	6.15±1.26
高 千 穂	159.74	0.24	0.89±1.20
播 磨	161.83	1.85	6.48±1.22

大和人と 7.29, 播磨人と 6.48 と云う関係が出たが, 身長に関しては, あまり近親度はくないと考えられる。

2. 耳 珠 高

耳珠高は stadiometer を使用し被計測者の右乳頭線に立て, 右側 耳珠点 と踏台との垂直距離を計測した。耳珠高は計測値そのものよりも, 身長より耳珠高を引き, 耳頭高の間接算出法のための測度として意味がある。周防人の平均値は 146.92 ± 0.22 を示している。大和, 出雲, 播磨, 備中人の, 148.87cm, 148.23cm, 148.70cm, 148.67cm に比して小である。

3. 肩 峰 高

肩峰高は stadiometer により, 左手指にて被計測者の右肩の Akromion をさぐつてその垂直距離を測定した。周防人の平均値は 132.50 ± 0.22 であり, 大和人の 131.26cm, 出雲人の 136.21cm, 備中人の 131.32cm, 飛弾人の 131.19cm, 高千穂人の 129.80cm, 越中人の 129.14cm より大きく, 因幡人の 134.66cm, 播磨人の 135.69cm, 始良人の 133.62cm より小である。

4. 中指尖端高

中指尖端高も Stadiometer で右側中指尖端よりの垂直距離を測定した。肩峰高より中指尖端高との差で全上肢長が測定できるのであるから, この測定時には上肢を移動させない様に注意した。周防人の平均値は 60.83 ± 0.16 であり, 備中人の 60.52cm, 飛弾人の 57.47cm, 薩摩人の 60.71cm より大きく, 大和人の 61.25cm, 出雲人の 61.01cm, 始良人の 61.88cm, 高千穂人の 61.87cm, 播磨人の 62.52cm, 因幡人の 64.45cm より小さい。

5. 全上肢長

この全上肢長は, 肩峰高より中指尖端高をひいた間接測定値である。周防地方人は 71.73cm で播磨, 備中, 因幡, 大和, 出雲人の 69.71cm, 70.50cm, 69.82cm, 70.02cm, 70.19cm より大きい。飛弾人の 71.85cm, 北海道アイヌ人の 72.08cm, 樺太アイヌ人の 72.55cm よ

り小さいが, 相当全上肢長が大きい値を示している。

6. 比 上 肢 長

比上肢長は身長と全上肢長との比であるが, 44.22% を示し, 大和, 出雲, 播磨, 備中, 因幡地方人の 43.25, 43.64, 43.07, 43.62, 42.36 より大きい。越中, 北海道アイヌ, 樺太アイヌ人の 44.74, 45.36, 45.84 より小さい。Iwanowski の上肢分類により, 上肢長の分類を他地方人と比較すると第 4 表の様になり, 長腕に 46.50% 入り, 中腕の 32.56%, 短腕の 21.39% の割合になっている。この分布の傾向としては, 庄内人に似ているが, 日本人のなかでは相当長腕の部に入つているといえる。

7. 腸骨前上棘高及び全下肢長

周防人の平均値は 90.65cm で, 播磨人の 90.83cm より小さいが, 大和人, 出雲人 88.41

第 4 表 上肢分類表 (比上肢長による)

分 類	短 腕	中 腕	長 腕
比 上 肢 長	~42.9	43.0~44.9	45.0~
播 磨	18.13%	79.63%	2.24%
高 麗	23.62	55.51	20.87
巨 摩	25.25	59.68	15.07
千 葉 中 部	19.63	59.45	20.92
八 丈 島	23.85	61.28	14.87
高 千 穂	58.42	36.04	5.54
日 立	35.00	55.33	9.67
岩 代 熱 海	18.88	51.93	29.19
磐 城	17.05	51.13	31.82
信 州 上 伊 那	25.00	58.50	16.50
北 部 信 州	26.74	61.96	11.30
出 雲	27.01	62.80	10.19
三 宅 島	16.00	64.80	19.20
信 州 飯 田	35.50	58.00	6.50
信 州 安 曇	39.32	57.09	3.59
大 和	41.71	52.28	6.01
庄 内	10.77	42.74	46.49
埼 玉 東 部	28.43	59.36	12.21
因 幡	57.71	37.75	14.54
備 中	22.78	57.19	20.03
周 防	21.39	32.56	46.05

cm, 87.70cm より大きい。

全下肢長は人種によつて差異があることは周知の事実である。日本人は明治以降生活環境の改善により、身長が増大が認められるが、その原因としては下肢長の増長があげられる。これは米国生れの日本人二世の例によつても証明できることである。しかし、全下肢長を生体にて正確に測定することは、今日不可能であるから、腸骨前上棘高と恥骨上縁高の間値をとる場合と、腸骨前上棘高を下肢長の代用とする場合、及び Martin の推定している腸骨前上棘高より身長に比例して次に示す数値を引き、下肢長の近似値を求める場合の三法があるが、私は第三の Martin の方法により、下肢長を求めた。即ち、

130cm 以下の身長では 15mm 引く

131~150cm の身長では 20mm 引く

151~165cm の身長では 30mm 引く

166~175cm の身長では 40mm 引く

170cm 以上の身長では 50mm 引く

である。

周防人の全下肢長は 87.21cm であり、播磨人の 87.48cm より小さいが、三宅島、八丈島、村山盆地人の 84.28cm, 83.50cm, 83.69cm より大きい。

IV 頭部に関する研究成績

頭部に関する種々の計測値及び指数値は人種相互間の近親度を論ずるのに最も必要で重要な価値がある。頭部に関する 9 項目の計測値を一括して示せば次の第 5 表の様である。

1. 頭長最大長及び頭最大巾

頭最大長及び頭最大巾は頭型及び種々の頭部指数を算出する基本となる重要な計測値である。人類学的に価値の高い人種形質として Anders. Retius 以来多くの研究者に使用され検討されて来た。頭最大長、頭最大巾については Walcher, Boas 等の一部の反対学説、及び未開土人間に於ける風俗習慣的人意的変化を除けば、一般には後天的影響の少い計測値

第 5 表 頭部の計測値及び指数値
(周防地方人 N=565)

形 質	M ± m	σ	V
頭最大長(mm)	184.00±0.23	5.36	2.91
頭最大幅(mm)	151.70±0.22	5.20	3.43
頭長幅指数	82.65±0.17	4.12	4.98
耳頭高(mm)	129.54±0.29	6.85	5.29
頭長耳頭高指数	70.40±0.26	6.24	8.86
頭幅耳頭高指数	85.25±0.26	7.62	8.93
最小前頭幅(mm)	125.66±0.28	6.74	5.36
頭幅前頭幅指数	82.66±0.20	4.75	5.75
比頭長(%)	11.50±0.02	0.53	4.61

とみるべきである。最近わが国に於ても頭型が環境の変化によつてかなり動くことを証明した学者があるが、これは場合によつて充分ありうることである。然しそうといつてもその頭部計測値が人種学的に無意味だというのではない。ただ頭型を数字で表わすことは困難ではあるが、頭最大長、頭最大巾を厳密に測定し、或は種々の指数を算出して検討するならば、かなり正確に人種の特徴を知り得るのであつて、人種学的に重要な指標であることを失わない。

周防人の測定成績は 184.00±0.22 で、大和、備中、播磨、因幡の 185.06mm, 185.21mm, 185.43mm, 185.80mm より小さく出雲人の 183.39mm, 相模平野人の 183.08mm より大であるが、古屋一門で計測した 57 地方人の中では小さい方である。最も近似値を示しているものは、信州飯田人の 184.15mm で、巨摩人の 184.68mm もこれに近い。女子は 176.40mm である。

頭最大巾の平均値は 151.70±0.22 で備中人の 151.92mm, 出雲人の 152.08mm, 奥能登人の 151.90mm, 土佐人の 151.46mm と近似値を示している。女子は 147.68mm である。

頭最大長と頭最大巾の周防人と他地方人との型差は第 6 表及び第 7 表で示している。頭最大長では、信州飯田人の 0.52、次に出雲人

第 6 表 頭最大長に於ける周防地方人と
他地方人との型差

各 地 人	M ₂	周 防 地 方 人 184.00±0.23	
		M ₁ ~M ₂	T.D.±m (T.D.)
対 島	188.66	4.66	15.10±2.42
日 向	188.63	4.46	16.02±1.98
土 佐	188.42	4.42	15.29±1.13
飛 彈	188.30	4.30	15.52±1.10
奥 能 登	188.10	4.10	14.88±1.21
加 賀 平 地	188.00	4.00	13.96±0.94
山形村山盆地	187.95	3.95	13.39±1.18
白 川	187.80	3.80	12.92±2.31
始 良	187.49	3.49	12.08±1.28
能 登 南 部	190.20	6.20	21.90±0.97
加 賀 山 地	187.30	3.30	12.68±1.40
播 磨	185.43	1.43	4.60±1.32
高 千 穂	187.58	3.58	11.46±1.28
信 州 安 曇	186.98	2.98	11.32±1.21
因 幡	185.80	1.80	5.76±1.24
信 州 上 伊 那	185.67	1.67	5.83±1.43
越 中 (婦 負)	192.00	8.00	27.92±1.35
埼 玉 東 部	185.28	1.28	4.34±1.23
備 中	185.21	1.21	4.11±1.23
大 和	185.06	1.06	3.50±0.98
巨 摩	184.68	0.68	2.51±1.50
北海道アイヌ	195.40	11.40	40.47±1.86
信 州 飯 田	184.15	0.15	0.52±1.72
越 中 (礪 波)	193.70	9.70	33.85±1.73
出 雲	183.39	0.61	2.19±0.99
熊 野 川 流 域	188.83	4.83	15.89±1.24

の 2.19, また 2.51 の巨摩人と近親度が濃厚であるが, 北海道アイヌ人の 40.47, 越中人の 33.85 及び 27.92, 能登南部人の 21.90 とは近親度がうすい。大和, 備中人は 3.50, 4.11 を示している。

頭最大巾では, 奥能登の 0.78 を筆頭に備中人の 0.79, 土佐人の 0.91, 出雲人の 1.48 などと近親度が強く, 始良, 因幡とはいくらか近親度が弱い。

2. 頭長巾指数

頭長巾指数は頭最大巾の頭最大長に対する比で示される頭型の簡単な表示法である。

第 7 表 頭最大幅に於ける周防地方と
他地方人との型差

各 地 人	M ₂	周 防 地 方 人 151.70±0.22	
		M ₁ ~M ₂	T.D.±m (T.D.)
巨 摩	153.20	1.50	6.02±1.49
大 和	153.11	1.41	5.08±0.96
信 州 上 伊 那	152.96	1.26	4.94±1.36
対 島	154.26	2.56	10.73±2.07
信 州 飯 田	154.45	2.75	10.37±1.66
信 州 安 曇	152.73	1.03	4.35±1.54
播 磨	153.49	1.79	6.43±1.17
高 千 穂	154.49	2.79	10.04±1.23
因 幡	155.08	3.38	12.17±1.20
飛 彈	152.30	0.60	2.39±1.11
出 雲	152.08	0.38	1.48±0.99
埼 玉 東 部	152.16	0.46	1.91±1.21
備 中	151.92	0.22	0.79±1.17
始 良	155.47	3.77	13.76±1.27
奥 能 登	151.90	0.20	0.78±1.04
土 佐	151.46	0.24	0.91±1.23
山形村山盆地	151.20	0.50	1.89±1.15
越 中 (礪 波)	150.92	0.78	2.68±1.48
日 向	150.83	0.87	3.38±1.03
加 賀 山 地	150.80	0.90	3.59±1.36
能 登 南 部	150.70	1.00	3.92±1.00
白 川	150.70	1.00	3.97±2.10
越 中 (婦 負)	150.70	1.00	4.13±1.31
北海道アイヌ	149.30	2.40	9.77±1.75
加 賀 平 地	149.10	2.60	10.30±0.97
熊 野 川 流 域	153.62	1.92	6.91±1.22

Martin はこの指数を使用して頭型の分類をしているが, 頭型を表現するものとしては, 完全なものではないが, 今日迄数多くの研究者に使用され, 他の頭部指数と共に種族差異を示す重要な指数である。周防人の頭長巾指数は, 82.65±0.17 で, 古屋一門によつて測定された 57 地区の平均値 81.36 に比較して 1.29 も大きく, 生体測定班の日本人平均の 81.21 よりもはるかに大きく, 短頭型に属している。他地方と比較したものが, 第 8 表の Martin の頭型分類表と, 第 9 表の型差による表である。女子は 83.68 である。

第 8 表 頭長巾指数頭型分類表

頭 型	長頭型	中頭型	短頭型	過短頭型
頭長巾指数	~75.9	76.0 ~ 80.9	81.0 ~ 85.4	85.5~
周 防	4.60%	31.86%	44.00%	19.54%
備 中	6.79	32.15	36.99	24.07
因 幡	4.55	26.88	39.13	29.44
播 磨	6.14	28.31	41.71	23.84
高 麗	3.34	29.53	47.44	19.69
巨 摩	3.94	29.25	46.64	20.17
出 雲	2.14	31.64	45.84	20.38
伊 那	1.69	26.97	47.00	24.34
八 丈 島	1.79	30.00	46.67	21.54
信 州 安 曇	0.57	43.67	48.20	7.56
三 宅 島	1.60	42.40	49.60	6.40
信 州 上 伊 那	2.00	31.00	48.00	19.00
信 州 飯 田	1.50	20.00	45.00	33.50
信 州 北 部	3.66	34.38	41.19	20.77
大 和	5.25	31.38	38.82	24.30
庄 内	3.10	45.35	40.78	10.77
千 葉 中 部	3.85	24.96	42.20	28.99
奥 能 登	5.47	49.27	39.96	5.29
飛 騨	5.35	48.07	39.85	6.72
村 山 盆 地	9.12	49.12	31.20	10.56
高 千 穂	8.42	34.44	34.44	22.70
加 賀 山 地	4.78	53.09	34.83	7.30
岩 代 熱 海	8.92	45.10	33.04	12.94
日 立	10.50	53.67	28.00	7.83
加 賀 平 地	14.81	54.88	27.34	2.79
能 登 南 部	14.76	55.83	26.49	2.72
磐 城	18.75	54.74	22.73	3.79
越 中	27.65	54.24	16.48	1.58
埼 玉 東 部	4.72	33.64	42.03	19.61

周防人の頭型分類は中頭型に 31.86%，短頭型に 44.00% で合計 75.86% を示し，過短頭型にも 19.54% ぞくしており，周防人はあきらかに短頭でもあることを示している．これを他地方人と比較すれば一層あきらかになる．第 2 図でわかる様に北海道アイヌ人及び越中人とは分類曲線が周防人と対照的な曲線を描いているが，出雲人とは同じ様な曲線を示している．その他分類曲線の類似しているもの

第 9 表 頭長幅指数に於ける周防地方人と他地方人との型差

各 地 人	M ₂	周 防 地 方 人 82.65 ± 0.17	
		M ₁ ~M ₂	T.D. ± m (T.D.)
対 島	81.85	0.80	4.66 ± 1.96
信 州 安 曇	81.85	1.07	6.68 ± 1.26
備 中	82.21	0.44	1.98 ± 1.15
埼 玉 東 部	82.22	0.43	2.14 ± 1.19
因 幡	82.47	0.18	0.83 ± 1.17
信 州 上 伊 那	82.55	0.10	0.53 ± 3.58
播 磨	82.61	0.04	0.17 ± 1.23
高 千 穂	82.41	0.24	1.08 ± 1.22
出 雲	82.67	0.02	0.10 ± 0.99
巨 摩	82.71	0.06	0.33 ± 1.45
飛 騨	80.92	1.73	9.50 ± 1.14
大 和	82.76	0.11	0.51 ± 0.95
奥 能 登	80.83	1.82	10.16 ± 1.19
始 良	82.98	0.33	1.67 ± 1.22
白 川	80.42	2.23	10.35 ± 1.85
山形村山盆地	80.51	2.14	10.89 ± 1.15
加 賀 山 地	80.59	2.11	11.77 ± 1.34
土 佐	80.47	2.18	11.34 ± 1.21
日 向	79.98	2.67	13.96 ± 1.06
信 州 飯 田	84.10	1.45	7.24 ± 1.63
加 賀 山 地	79.38	3.27	17.69 ± 0.99
能 登 南 部	79.36	3.29	18.13 ± 1.03
越 中 (婦負)	78.58	4.07	23.24 ± 1.33
越 中 (彈波)	77.92	4.73	25.54 ± 1.59
北海道アイヌ	76.59	6.06	36.84 ± 1.09
熊野川流域	81.84	0.81	3.87 ± 1.35

第 2 図 頭長巾指数頭型分類

に大和人，埼玉東部人，信州北部人などがあげられる．型差では，出雲人の 0.10 播磨人の

0.17, 巨摩, 大和, 信州上伊那, 因幡人は全て 1.00 以下で近親度が強い。

4. 比 頭 長

頭最大長と身長との比を % であらわしたものであり, 周防人は 11.50 ± 0.02 で, 大和人の 11.43, 出雲人の 11.39, 播磨人の 11.45, 備中人の 11.52 と類似しており, 有意の差はみとめられない。

5. 耳 頭 高

耳頭高の計測法には直接法と間接法の 2 法がある。即ち直接法は Stangenzirkel で, 頭頂と耳珠点との距離を直接に計測する方法で, 間接法は身長より耳珠高を引いたその差を耳

第 10 表 耳頭高に於ける周防地方人と他地方人との型差

各 地 人	M_2	周 防 地 方 人 129.54 ± 0.29	
		$M_1 \sim M_2$	$T.D. \pm m$ (T.D.)
信 州 飯 田	127.68	1.86	5.17 ± 1.68
巨 摩	127.60	1.94	4.87 ± 1.65
日 向	127.42	2.12	6.19 ± 1.03
信 州 安 曇	126.98	2.56	6.50 ± 1.25
土 佐	127.67	2.89	7.60 ± 1.30
出 雲	126.71	2.83	8.21 ± 0.67
信州上伊那	126.37	3.17	9.29 ± 1.38
埼玉東部	126.08	3.46	9.79 ± 1.25
対 島	125.61	3.96	9.24 ± 2.42
飛 弾	125.60	3.94	10.64 ± 1.09
加 賀 平 地	125.80	3.74	11.52 ± 0.99
播 磨	131.71	2.17	6.49 ± 1.43
高 千 穂	123.85	5.69	14.62 ± 1.25
北海道アイヌ	125.70	3.84	11.33 ± 1.86
始 良	125.32	4.22	10.68 ± 1.31
越 中 (婦負)	125.30	4.24	12.51 ± 1.32
大 和	130.91	1.37	3.56 ± 0.96
加 賀 山 地	124.50	5.04	15.32 ± 1.34
備 中	124.04	5.50	15.40 ± 1.21
山形村山盆地	123.68	5.86	16.00 ± 1.16
越 中 (礪波)	123.41	6.13	18.39 ± 1.68
因 幡	122.06	7.48	18.70 ± 1.26
能 登 南 部	123.20	6.34	20.92 ± 1.14
奥 能 登	120.60	8.94	28.25 ± 1.21
白 川	117.80	11.74	33.69 ± 2.08
熊野川流域	127.67	1.87	4.81 ± 1.25

頭高とする方法である。しかし両法とも垂直保持が困難であるから, 測定誤差が大となり易いので, 計測のさい慎重に行わねばならないものである。私は間接法により算出した。

周防人は 129.54 ± 0.29 で, 大和人の 130.91 mm, 新潟東蒲原人の 130.98 mm, と播磨人の 131.71 mm, 北朝鮮人の 132.65 mm と比較的近似値を示しているが, 周防人の耳頭高は古屋一門の計測した 57 地区の耳頭高の計測値に比して, 大きい数値を示している。その他の地方人とは相当かけはなれた数値を示し, 有意の差が認められる。第 10 表の型差においても同様に大和人の T.D. 3.56, 巨摩人の 4.87, 熊野川流域住民の 4.81 ぐらいが近親度がいくらかあると云えるのみで, 白川人の 33.69, 奥能登人の 28.25, 能登南部人の 20.92 を筆頭として他の地方人とは T.D. が大きく近親度がみとめられない。

6. 頭長耳頭高指数

頭長耳頭指数に頭長に対する頭高の比を示す指数値で, 周防人の成績は 70.40 ± 0.26 である。大和人の 71.06, 播磨人の 71.25 より小であるが, 出雲人の 69.20 をはじめとして巨摩人の 69.11, 備中人の 67.31, 因幡人の 64.55 など各地方人と非常に大きな差を示している。これを頭最大長, 耳頭高及び頭長耳頭高指数の関係図にて考察するに, この指数値の差は頭最大長より, 耳頭高の差による影響が強く作用していることがわかる。

Saller の頭長耳頭高指数頭型分類によると, 第 11 表の様に高頭型に 84.18% ぞくし, 中頭型に 10.35%, 低頭型に 5.47% ぞくしている。これは地理的に近い位置にある出雲人, 備中人の分類曲線と近似している。又巨摩人, 信州安曇人とも同様な分布状態を示しているが, 越中人, 庄内人, 磐城人とは異つた分類曲線を示している。しかしこゝに特筆すべきことは, 地理的に中国山脈を越せばすぐ行けるとなりの因幡人とのこの分類曲線の差異である。これもすべて他地方人との頭最大長の差より耳

第 11 表 頭長耳頭高指数分類表

頭 型	低 頭 型	中 頭 型	高 頭 型
頭長耳頭高指数	~57.9	58.0~62.9	63.0~
周 防	5.47%	10.35%	84.18%
因 幡	9.88	16.21	73.91
備 中	2.58	11.15	86.27
播 磨	0.93	7.84	91.23
高 磨	1.57	8.47	89.96
千 葉 中 部	0.73	8.99	90.28
八 丈 島	1.54	8.59	90.51
出 雲	0.86	11.80	87.33
村 山 盆 地	5.60	28.80	65.60
高 千 穂	2.79	19.76	77.45
東 海	0.83	10.95	88.23
巨 磨	0.71	12.31	86.98
信 州 飯 田	0.00	9.50	90.50
信 州 上 伊 那	0.00	8.00	92.00
岩 代 熱 海	0.52	12.43	87.05
信 州 安 曇	1.32	14.18	84.50
日 立	0.00	5.46	94.54
大 和	0.49	2.21	97.30
飛 弾	2.37	16.06	81.57
三 宅 島	2.40	17.60	80.00
信 州 北 部	2.82	19.94	77.24
越 中	3.79	32.40	64.81
磐 城	13.26	24.05	62.69
庄 内	7.18	33.44	59.38
埼 玉 東 部	0.40	12.80	86.80

頭高の差が、この指数の差異に強く影響していることを示すものである。

型差によつて他地方人と比較すると、大和人の 2.66 が最も近く、播磨人の 2.71、信州飯田人の 3.46、巨摩人の 4.61、出雲人の 5.28 が近親度がこいのみで他の地方人とは T.D. 10.00 以上を示して近親度のうすいことを示しているが、これも耳頭高の差がこのような差を示めさせたのであろう。女子の指数値は 68.21 である。

7. 頭巾耳頭高指数

頭巾耳頭高指数は耳頭高の頭最大巾に対する比である。周防人は 85.25 ± 0.32 であり、大

第 12 表 頭長耳頭高指数に於ける
周防地方人と他地方人との型差

各 地 人	M_2	周 防 地 方 人 70.40 ± 0.26	
		$M_1 \sim M_2$	T.D. $\pm m$ (T.D.)
信 州 上 伊 那	68.09	2.31	9.93 ± 1.23
信 州 安 曇	68.06	2.35	8.27 ± 1.22
埼 玉 東 部	67.97	2.43	9.79 ± 1.25
播 磨	71.25	0.85	2.71 ± 1.24
高 千 穂	66.46	3.94	14.85 ± 1.21
日 向	67.78	2.62	11.34 ± 1.22
巨 摩	69.11	1.29	4.61 ± 1.44
備 中	67.31	3.09	13.29 ± 1.38
出 雲	69.20	1.20	5.28 ± 1.30
土 佐	67.12	3.28	12.17 ± 1.26
始 良	66.96	3.44	12.21 ± 1.25
信 州 飯 田	69.53	0.87	3.46 ± 1.58
加 賀 平 地	67.02	3.38	15.14 ± 1.22
飛 弾	66.76	3.64	14.31 ± 1.18
対 島	66.49	3.96	14.41 ± 1.99
加 賀 山 地	66.56	3.84	16.70 ± 1.40
大 和	71.06	0.66	2.64 ± 1.18
能 登 南 部	65.44	4.96	25.15 ± 1.36
山形村山盆地	64.60	5.80	22.74 ± 1.22
奥 能 登	64.64	5.76	27.13 ± 1.39
北海道アイヌ	64.18	6.22	26.25 ± 1.74
因 幡	64.55	5.85	31.00 ± 1.68
越 中 (礪波)	64.29	6.11	26.58 ± 1.63
越 中 (婦負)	63.35	5.05	21.77 ± 1.34
白 川	62.75	7.65	29.76 ± 1.95
熊野川流域	68.22	2.18	7.69 ± 1.18

和人の 85.05、日向人の 84.64、加賀平地人の 84.48、播磨人の 86.05 であるが、出雲人の 83.55、備中人の 81.55 とは有意の差が認められる。又近接の因幡人の 78.32 とは 7.93 と云う大差があるのは特異な事実である。型差においても因幡人とは 25.37、白川人と 22.69 と大差が認められるが、大和人との 0.64、日向人の 1.99、播磨、信州安曇、加賀平地、土佐人など型差 5.00 以下で近親度がつよい。又 Martin, Saller の頭巾耳頭高指数による頭型分類を示したものが第 13 表のように、巨大型に 47.6 % で最も多く、次に Tapeino.

第 13 表 頭巾耳頭高指数分類表

頭 型	Tapeino Kephal	Meterio Kephal	Akro Kephal
頭巾耳頭高指数	~78.9	79.0~84.9	85.0~
周 防	27.01%	25.83%	47.16%
因 幡	45.06	39.13	15.81
備 中	26.33	44.43	29.24
播 磨	13.99	31.53	54.48
高 鹿	20.47	39.37	40.16
出 雲	17.29	44.71	38.00
巨 摩	14.63	49.01	36.36
大 和	13.74	40.47	45.79
信州安曇	27.60	37.43	34.97
信州飯田	23.00	44.00	33.00
飛 弾	24.91	42.22	32.88
八 丈 島	24.10	42.80	33.08
三 宅 島	30.40	39.20	30.40
高 千 穂	36.80	46.00	17.20
村山盆地	40.48	44.48	15.04
日 立	4.33	48.00	40.67
千葉中部	24.04	43.12	32.84
磐 城	33.71	34.09	32.20
越 中	23.34	47.48	30.16
信州上伊那	18.00	53.00	29.00
岩代熱海	7.13	55.60	27.27
信州北部	29.90	44.35	25.75
庄 内	54.81	33.93	11.26
埼玉東部	19.60	45.60	34.80

Kephal の 27.01% 中頭型の 25.83% となつて
いる。その分類曲線を比較してみたが他地方
人と少し異つた曲線を示している。巨大型の
47.16% によりこの指数値 85.25 が古屋一門の
計測値の中では大なる部に入る原因となつて
いるのであろう。女子の指数値は 83.18 であ
る。

8. 最小前頭巾

最小前頭巾は、前額両側の Linea Temporalis の後方凹部に最短巾を計測した。周防人の測定値は 125.66 ± 0.28 と云う非常に大きな値が出ており、全ての地方人と有意の差がある。

すなわち大和人の 112.91, 出雲人の 111.62,

第 14 表 頭幅耳頭高指数に於ける周防地方人と他地方人の型差

各 地 人	M ₂	周 防 地 方 人 85.25 ± 0.32	
		M ₁ ~M ₂	T.D. ± m (T.D.)
越 中 (婦負)	83.26	1.99	6.90 ± 1.39
巨 摩	83.43	1.82	5.41 ± 1.45
出 雲	83.55	1.70	6.12 ± 1.20
信州飯田	83.01	2.24	7.32 ± 1.57
山形村山盆地	80.22	5.03	16.75 ± 1.24
因 幡	78.32	7.93	25.37 ± 1.34
奥 能 登	80.04	5.21	19.07 ± 1.34
白 川	78.27	6.98	22.69 ± 1.96
土 佐	83.76	1.49	4.47 ± 1.28
埼玉東部	82.84	2.41	8.15 ± 1.29
北海道アイヌ	83.93	1.32	4.33 ± 1.73
信州上伊那	82.62	2.63	9.15 ± 1.42
飛 弾	82.56	2.69	8.63 ± 1.19
加賀山地	82.56	2.69	9.58 ± 1.42
越中(礪波)	82.44	2.81	6.83 ± 1.15
信州安曇	84.49	0.76	2.17 ± 1.21
能登南部	82.46	2.79	10.94 ± 1.39
加賀平地	84.48	0.77	2.87 ± 1.24
日 向	84.64	0.58	1.99 ± 1.20
大 和	85.05	0.20	0.06 ± 1.14
備 中	81.55	3.70	12.58 ± 1.32
対 島	81.42	3.83	11.68 ± 1.99
播 磨	86.05	0.80	2.19 ± 1.20
高 千 穂	80.60	4.65	15.67 ± 1.30
熊野川流域	83.33	1.92	5.84 ± 1.25
始 良	80.45	4.80	14.26 ± 1.26

播磨人の 114.86, 備中人の 106.41, 北海道アイヌの 108.5mm などの差である。この為に頭巾前頭巾指数も大和, 出雲, 播磨, 備中人の 73.70, 73.41, 74.87, 70.30 よりはるかに大きな 82.66 を示すようになったのである。

VI 顔面に関する研究成績

顔面に関する測定は軀幹, 四肢及び頭部に於ける諸計測並びに指数と共に人種比較上極めて重要な指標をなしている。いわゆる“顔つき”を数字で示すわけで、これらの計測値指数値を一括して第 15 表に示す。

第 15 表 顔面の計測値及び指数値
(周防地方人 N=565)

形 質	M $\pm$ m	σ	V
顴骨弓幅(mm)	136.90 $\pm$ 0.32	5.46	3.98
頭幅顴骨弓幅指数	90.24 $\pm$ 0.17	4.04	4.48
顴骨弓幅前頭幅指数	91.78 $\pm$ 0.23	5.44	5.92
下顎角幅(mm)	112.48 $\pm$ 0.32	7.58	6.73
顴骨弓幅下顎角巾指数	82.20 $\pm$ 0.23	5.42	6.59
形態顔面高(mm)	119.45 $\pm$ 0.25	5.85	4.89
形態顔面指数	87.38 $\pm$ 0.24	5.68	6.50

1. 顴骨弓巾

顴骨弓巾は頭巾、下顎角巾と共に顔面部の横径を示す三つの重要な計測値として Kretschmer, Sigaud, Kruse の体型分類に附随して顔型分類上重視されている。即ち計測値及びこれらの指数を求めて比較するならば一層よい価値を示すものである。又、顴骨弓巾は環境及び外的因子の影響を被ることも僅少であり、遺伝的關係もよく示し変異係数も僅少であると云われている。先人の計測値による変異係数はいずれも 3.00~4.00 である。

周防人の計測値の平均値は 136.90 $\pm$ 0.23 で、大和人の 142.13, 出雲人の 142.17, 播磨人の 142.98, 備中人の 141.05, 因幡人の 140.12mm に比して相当大きな差を示している。古屋一門の計測地では、琉球人の 137.12mm, 土佐人の 139.70mm, がこれに近い値を示しているのみで、最も小さい値を示している。

2. 頭巾顴骨弓巾指数

顴骨弓巾の頭最大巾に対する比であり、前述したように顔型を示す重要な指数の一つである。周防人の平均値は 90.24 である。大和人の 92.88, 出雲人の 93.10, 備中人の 93.60, 播磨人の 92.97, 巨摩人の 93.21, 北海道アイヌの 95.36 より小さく、有意の差を示しているが、因幡人の 89.74 より大きい。しかし因幡人とは有意の差をみとめられない。

3. 顴骨弓巾前頭巾指数

顴骨弓巾前頭巾指数は頭巾顴骨弓巾指数と

共に顔型を示す重要な指数値である。

周防人の 91.78 $\pm$ 0.23 は他地方人と非常に異つた値を示しているが、これも全て最小前頭巾の値が他地方人と異つた大きな数値を示していることが強く影響しているのである。女子の計測値は 93.52 である。

4. 下顎角巾

下顎角巾は、顔面下部の横径を示すもので、顴骨弓巾と共に顔型分類上重要視されている。又 Sigaud は下顎角巾の大小に依り、消化器型、脳型などの体型分類判定に利用している。測定成績は 112.48 $\pm$ 0.32 で大和人の 112.70, 播磨人の 112.96 より小さく、出雲人の 109.70, 備中人の 109.75, 巨摩人の 109.30, 高千穂人の 111.68mm より大である。

5. 顴骨弓巾下顎角巾指数

この指数は顔型の中部と下部との比であり、最もよく顔型分類に使用されている。顔面下半分の狭型、広型が示されるので顔型研究上かくことの出来ない指数とされている。周防人の指数値は 82.20 $\pm$ 0.23 で相当大きく、Salter, Lundburg の顔型分類表による広型にぞくしている。これは顴骨弓巾に対して下顎角巾の比が大きいことを示している。第 16 表のように広型と過広型に 73% もぞくしていることでもわかる。この分類曲線は他地方人とは全然異り、わずかに因幡人といさゝか近似しているのみである。これもこの周防人の一つの特異なあらわれであろう。大和人の 79.32, 出雲人の 77.11, 播磨人の 79.39, 備中人の 77.36, 甲斐人の 77.34, 北海道アイヌ人の 77.85, 越中人の 77.76, 三宅島人の 77.60, 八丈島人の 76.89 など、周防人の 82.20 よりはるかに小さい。因幡人のみ 83.16 で因幡人の下顎角巾 118.16mm が非常に強く作用しているのであるが、周防人の場合は、下顎角巾の 112.48mm よりむしろ顴骨弓巾の 136.90mm という小ささが影響しているのであろう。

第 16 表 顴骨弓巾下顎角巾指数顔型分類表

顔 型	過狹型	狹 型	中等型	広 型	過広型
顴骨弓巾下 顎角巾指数	69.9	70.0 74.9	75.0 79.9	80.0 84.9	85.0
周 防	2.65	7.61	16.64	32.74	40.36
播 磨	0.93	10.80	48.42	32.03	7.82
高 麗	0.59	21.65	51.18	21.66	4.92
信州上伊那	1.00	20.00	52.00	26.00	11.00
八 丈 島	2.57	27.18	51.02	18.46	0.77
大 和	0.40	7.67	52.21	36.12	3.87
飛 弾	1.49	26.03	51.18	20.42	0.87
磐 城	1.14	14.21	52.27	26.51	5.81
越後東蒲原	0.57	16.47	52.31	29.68	0.97
三 宅 島	1.60	20.00	52.80	24.80	0.80
日 立	0.33	18.00	54.00	25.67	2.00
庄 内	0.33	10.77	52.86	33.28	2.77
信 州 北 部	0.84	12.29	52.83	31.71	2.33
伊 那	0.94	18.16	53.74	25.66	1.50
巨 摩	2.37	23.32	54.54	17.00	2.77
越 中	1.07	18.27	56.45	23.65	0.53
信 州 飯 田	0.50	15.00	57.50	25.00	2.00
信 州 安 曇	0.38	5.48	58.60	34.41	1.13
岩 代 熱 海	0.71	10.14	59.61	27.09	2.45
相 模 平 野	1.00	19.75	54.75	21.00	3.50
千 葉 中 部	0.18	8.99	55.78	32.11	2.94
出 雲	0.60	22.72	60.72	15.01	0.94
埼 玉 東 部	1.80	21.80	50.20	24.60	1.60
因 幡	0.00	0.99	14.03	42.49	42.49
備 中	1.45	19.06	54.94	21.97	2.58

5. 形態顔面高

形態顔面高は、顔面の縦径を示す数値である。その測定には二方法あるが、私は Martin の法により、鼻根正中点 (Nasion) と、下顎下縁正中点 (Gnation) との投射高の方法に依り測定した。計測値は 119.45 ± 0.25 で播磨人の 122.28 mm、大和人の 121.40mm、出雲人の 122.80mm、備中人の 120.68mm、北海道アイヌの 121.30mm より小さく、飛弾人の 119.30 mm、奥能登人の 119.70mm と近似値を示している。女子の計測値は 112.45mm と小さい。

6. 形態顔面指数

形態顔面指数は形態顔面高と顴骨弓巾との

比であり、顔面の横径と縦径との関係をあらわし、顔型分類上重要なものである。

周防人の平均値は 87.38 で中等型に入る。

大和、出雲、備中、播磨人の 85.26~86.42 などより大きく、加賀山地人の 87.44、加賀平地人の 87.70、対馬人の 87.62 と近似している。因播人の 88.78 より小である。形態顔面指数による顔型分類表は第 17 表のようになるが、中等型に 45.38% と最高であり、次に狭型の 30.19% があり、広型の 13.27%、過狭型の 7.12%、過広型の 4.04% とつづいている。この分布状態は出雲人、岩代熱海人、八丈島人、日立人と類似している。型差では、加賀山人

第 17 表 形態顔面指数顔型分類表

顔 型	過広型	広 型	中等型	狭 型	過狭型
形態顔面指数	78.9 ~	79.0 ~ 83.9	84.0 ~ 87.9	88.0 ~ 92.9	93.0 ~
周 防	4.04	13.27	45.38	30.19	7.12
播 磨	8.58	27.05	28.17	29.11	7.09
高 麗	2.95	18.50	28.94	36.42	13.19
庄 内	0.82	13.21	28.87	39.48	17.62
磐 城	4.36	23.48	28.60	30.87	12.69
八 丈 島	1.28	22.56	36.67	29.23	10.23
出 雲	4.36	26.01	33.58	28.21	7.84
巨 摩	3.56	23.72	35.57	28.46	8.69
三 宅 島	6.40	26.40	30.40	30.40	6.40
越後東蒲原	9.00	21.11	27.69	31.37	10.82
岩 代 熱 海	1.75	15.03	49.29	32.89	1.07
日 向	1.00	14.17	48.17	36.49	0.17
相 模 平 野	1.00	9.75	26.75	39.00	23.50
信州上伊那	8.10	33.80	29.60	24.00	4.50
越 中	8.06	29.03	31.72	24.19	6.98
大 和	9.60	32.73	29.21	21.96	6.49
千 葉 中 部	6.24	28.44	33.21	23.85	8.26
飛 弾	17.81	35.24	29.64	14.82	2.49
信 州 飯 田	10.00	29.00	35.50	22.00	5.50
信 州 安 曇	12.85	40.08	28.17	15.31	3.59
伊 那	8.80	32.02	31.09	23.22	4.87
埼 玉 東 部	11.20	31.40	32.80	18.40	6.20
因 幡	0.59	9.49	25.89	36.56	27.47
備 中	8.72	23.59	29.24	31.34	7.11

第 18 表 形態顔面指数における周防地方人と他地方人との型差

各 地 人	M ₂	周 防 地 方 人 87.38±0.24	
		M ₁ ~M ₂	T.D.±m (T.D.)
大 和	85.26	2.12	8.06±1.04
出 雲	86.42	0.96	3.65±1.00
巨 摩	86.93	0.45	1.72±0.14
信 州 安 曇	84.07	3.31	13.34±1.23
信 州 上 伊 那	85.22	2.16	8.64±1.34
信 州 飯 田	85.24	2.14	8.17±1.56
備 中	85.72	1.66	6.31±1.18
熊 野 川 流 域	83.88	3.50	13.27±1.18
埼 玉 東 部	84.88	2.50	11.70±1.24
播 磨	86.18	1.20	4.42±1.22
始 良	86.54	0.84	3.78±1.26
高 千 穂	83.24	4.14	15.03±1.22
因 幡	88.78	1.40	4.90±1.21
対 島	87.62	0.24	0.90±0.205
日 向	84.95	2.43	10.18±1.12
土 佐	86.43	0.95	3.87±1.35
飛 弾	83.51	3.87	15.05±1.14
加 賀 平 地	87.70	0.32	1.27±1.03
加 賀 山 地	87.44	0.06	0.25±1.37
山形村山盆地	83.36	4.02	14.90±1.16
白 川	84.03	3.35	13.37±1.99
奥 能 登	84.30	3.08	12.26±1.22
越 中 (婦負)	86.91	0.47	1.91±1.32
能 登 南 部	83.62	3.76	15.57±1.09
越 中 (礪波)	85.55	1.83	7.47±1.70
北海道アイヌ	85.32	2.06	7.97±1.74

の T.D. 0.25 が最も近く、対島、加賀平地、巨摩、越中婦負人と T.D. 2.00 以下で近親度が大きい。しかし、飛弾、白川、能登南部人は T.D. 15.00 以下で近親度は小さい。女子の指数値は 88.33 と大きい。

VII 平均型差による総合比較

以上個々の計測値及び指数値について比較検討を行つて来たが、全部を総合比較し、総合的に互いに類縁度の有無を知る必要がある。

人種の親疎の度合を示すには色々な方法があるが、現在最も広く用いられている方法は

種族型差である。型差は Mollison により係数を 50 として考案された。その後 Poniatouesky により便宜上係数を 100 に修正された。

古屋は更に係数を 10 とし、計測法の項で示した T.D. の方式に修正した。平均型差も変異係数に関係なく単純に平均して平均型差を算出するのは不合理である為、 $1/V$ をかけることにより変異係数によつて重みづけた上で平均した。この修正した型差及び平均型差の算出方法により各地方人と比較して次の様な成績を得た。

又、図に示したものが第 3 図である。

第 3 図 周防人对各地方人の平均型差図

平均型差については身長、頭最大長、頭最大巾、頭長巾指数、耳頭高、頭長耳頭高指数、頭巾耳頭高指数、形態顔面指数の代表的 8 項目について算出した。その結果巨摩人の 3.20 を筆頭に大和人の 4.28、出雲人の 4.48、播磨人の 4.66、備中人の 5.09 と地域的に近接している地方人及び歴史的に関係があるとされている地方人に近親度が濃厚である。又埼玉東部人、信州飯田人が M.T.D. 500 台となっている。これらは全て、大陸系より移住した歴史がのこされている地方が多いことも興味ある事実である。

第 19 表 周防地方と他地方人との
各項目別近親度表

	型差 4.00 以下	型差 15.00 以上
身長	巨摩, 埼玉東部, 土佐, 村山盆地, 北海道アイヌ, 備中, 出雲, 高千穂, 奥能登, 白川, 能登南部, 熊野川流域, 日向, 加賀山地, 加賀平地,	
頭最大長	大和, 出雲 巨摩 信州飯田	土佐, 熊野川流域, 日向, 対島, 北海道アイヌ, 越中礪波, 越中婦負, 飛弾, 能登南部
頭最大巾	出雲, 備中, 埼玉東部, 土佐, 飛弾, 村山盆地, 奥能登, 白川, 能登南部, 越中礪波	
頭長巾指数	高千穂, 大和, 備中, 出雲, 巨摩, 埼玉東部, 信州上伊那, 因幡, 始良, 播磨, 熊野川流域, 加賀山地	北海道アイヌ, 加賀平地, 能登南部, 越中礪波, 越中婦負
耳頭高	大和	備中, 村山盆地, 白川, 奥能登, 能登南部, 越中礪波, 因幡, 加賀山地
頭指長耳頭高数	大和, 播磨, 信州飯田	因幡, 村山盆地, 奥能登, 能登南部, 越中礪波, 越中婦負, 加賀平地, 加賀山地, 白川
頭指巾耳頭高数	大和, 播磨, 信州安曇, 日向, 加賀平地	村山盆地, 白川, 奥能登, 因幡, 高千穂
形態頭高数	出雲, 巨摩, 土佐, 越中婦負, 加賀山地, 始良, 対島, 加賀平地	高千穂, 飛弾, 能登南部

第 20 表 周防地方人と他地方との
各項目別近親度の度数表

型差 4.00 以下	型差 15.00 以上
大和(5) 備中(3) 出雲(5) 信州安曇(1) 巨摩(4) 信州上伊那(1) 信州飯田(2) 因幡(1) 埼玉東部(3) 対島(1) 熊野川流域(2) 北海道アイヌ(1) 土佐(3) 越中礪波(1) 越中婦負(1) 高千穂(2) 始良(2) 播磨(3) 日向(3) 飛弾(1) 加賀山地(8) 加賀平地(3) 村山盆地(2) 奥能登(2) 白川(2) 能登南部(2)	備中(1) 北海道アイヌ(3) 越中礪波(4) 越中婦負(3) 加賀平地(2) 加賀山地(2) 対島(1) 村山盆地(3) 白川(3) 奥能登(3) 能登南部(5) 飛弾(2) 土佐(1) 信州上伊那(1) 因幡(3) 熊野川流域(1) 日向(1) 高千穂(2)

これに反し、北海道アイヌ人の 18.76 と共に日本内地においてアイヌ系と目されている越中人 (16.16, 14.46) や能登南部人, 奥能登人などは M.T.D. 12.00 以上を示し、近親度がうすくなっているのも面白い事実である。これは周防人が、播磨人, 備中人などと同様に一連の特色を示すものであるといえる。

項目別の近親度をもとめたものが第 19 表及び第 20 表である。T.D. 4.00 以下を示した度数は、大和人, 出雲人の 5 項目を筆頭に巨摩人の 4 項目, 備中人, 播磨人, 土佐人, 日向人, 埼玉東部人の 3 項目であるが、こゝで注目すべき事は加賀山地人と加賀平地人の 3 項目のあることである。逆に T.D. 15.00 以上を示し近親度がうすいものには、能登南部人の 5 項目を筆頭に越中礪波の 4 項目, 北海道アイヌ, 越中婦負, 白川, 奥能登, 村山盆地人の 3 項目である。こゝでも地理的に非常に近接している因幡人と 3 項目の T.D. 15.00 以上のものがあることは考えねばならぬことである。こゝにおいても、平均型差による考察と同様な結果をあらわしていることがわかる。

VII 偏差折線による比較

平均型差による比較法は多数の種族との近親度を一数值で一回瞭然に比較しうる特徴がある。が、個々の型差の正負の方向は無視されている。故にこの欠点を補う為に Mollison の偏差折線図示法によつて検討してみた。これは偏差曲線法 $\frac{M_1 - M_2}{\sigma_1}$ 、偏差比曲線法 $\frac{M_1 - M_2}{m_1}$ 、型差曲線法 $10(M_1 - M_2) \left(\frac{1}{\sigma_1} + \frac{1}{\sigma_2} \right)$ の 3 種の方法があるが、そのうち型差曲線法は基線種族と被比較種族とが互に変更しても絶対値は変わらず正負が逆となるだけで基線に対して対称的な線を書くため応用も広い。これを用いて大和、出雲、越中、北海道アイヌ人の各地方人と比較すれば第 4 図となり、そ

第 4 図 周防地方人対各地方人型差曲線図

の正負が明瞭に示されている。周防人と大和人及び出雲人は M.T.D. 4.28 と 4.48 と共に近親度が濃厚であるが、大和人は周防人に対して正のものが多く、出雲人その逆に負のものが多くことがわかる。又周防人は他の 3 地方人に対し、大体に於て正のものが多く。

IX 指数関係図示法による比較

人種の近親度を知るのに各個々の計測も大

切であるが、それによつて算出される指数値はより重要であることは前にも述べた。しかしその指数値のみでは構成分子がはつきりしない。構成分子が異つても指数値は同一であることもあり得る。故に指数値と同時に構成分子も表わす図示法により比較検討してみた。

頭長巾指数、頭最大長、頭最大巾の相互関係を図示すると第 5 図となる。

第 5 図 頭長、頭巾、頭長巾指数の関係図

こゝでも大和、巨摩、備中、出雲人と一団となつている。しかし周防人の頭最大巾が小さい方なので、この関係図では下方に位置している。又北海道アイヌ、越中、能登南部人とは相当の差があることが一目瞭然としてわかる。

又他の相互関係図である形態顔面高、顴骨弓弓、形態顔面指数の場合も大体上記と同様な結果が示されている。

X 三角図示法による比較

平均型差法、偏差曲線法、指数関係図示法により他地方住民との比較検討を行つたが、相互間の関係をより一層明かにするために、三角図示法によつて更に比較してみた。

周防地方人を中心として、歴史的に関係のある大和人と出雲人との関係図と、隣接して

第6図 周防地方人と他地方人との相互三角関係図

いる備中地方人と確かに近親度が遠いと考えられる北海道アイヌ人との関係図が第6図であるが、これまた一目瞭然にその近親度がわかる。又大和、出雲、周防人の三者の関係の方が、後者の関係より密接なつながりがあることを表している。

む す び

私は昭和33年5月より昭和34年10月迄1年5月間、体質人類学的見地より、山口県周防地方（徳山の北7里にある鹿野町を中心にした鹿野盆地）の地つきの住民成年男子565名及び成年女子325名について、軀幹四肢、頭部及び顔面などの生体測定を行い、27項目の計測値及び指数値をもとにして、詳細な考察をして、他地方人との比較検討を行つた。その結果次の様な結論が出た。こゝでは成年男子のみ他地方人と比較検討した。

1) 周防人の身長は平均値は159.98cmでMartinの身長分類では「小」の部にぞくしているが、日本人男子としては「中の下」にぞくしている。土佐人、高千穂人、加賀平地人、能登南部人に近い値を示している。

2) 上肢長は71.73cmで、比上肢長は44.22%でImancwskiの上肢分類では、長腕が46.05%で最も多く、中腕の32.56%、短腕の21.39%となっており、身長に比し上肢長が長いことを示している。

3) 頭最大長は184.00mmで、信州飯田、出雲、巨摩人に近い。頭最大巾は151.70mmで、土佐、奥能登、備中、出雲人に近い。

4) 頭長巾指数は82.65で古屋一門の測定した地区の平均値81.31をはるかにこした短

頭型にぞくしている。これは、頭最大長が頭最大巾に比較して小さいことを示している。

Martinの頭型分類でも短頭型に最も多く44.15%ぞくし、中頭型の31.86%となつている。分類曲線及び型差は、出雲、巨摩、播磨、大和、因幡、信州上伊那人と近親度が濃い。北海道アイヌ、越中人とは近親度がうすい。

5) 耳頭高は129.54mmで、大和、巨摩、信州飯田、熊野川流域住民と似ており、日本人の耳頭高としては大きい方である。

頭長耳頭高指数及び頭巾耳頭高指数は、それぞれ70.40と、85.25で共に大きな値を示しているが、共に大和、播磨人と近親度がこい。

6) 最小前頭巾は125.66mmで非常に大きな値を示しており、全ての地方人と有意の差が認められる。その為に顴骨弓巾前頭巾指数が91.78で、他地方人と非常に異つた値を示している。

7) 顴骨弓巾は136.90mmで、土佐、琉球人に近似しているが古屋一門計測地中最も小さい値を示している。

8) 顴骨弓巾下顎角巾指数は82.20で相当大きく、顔型分類で広型にぞくしている。すなわち広型と過広型に73%はいつている。

9) 形態顔面高は119.45mmで飛弾人、奥能登人と近似値を示している。形態顔面指数は87.38で、中等型である。顔型分類では出雲人の分類曲線とにている。加賀、越中、巨摩人と近親度が強い。

10) 平均型差により、他地方人と比較すると、巨摩、大和、出雲、播磨、備中、埼玉東部、信州飯田人とM.T.D. 5.50以下の値を示しているが、大陸系より移住した歴史がのこされている地方ばかりであることは興味深い発見である。これに反しアイヌ系と目されている越中及び能登人は、北海道アイヌと共にM.T.D. 12.00以上を示し近親度がうすい。

11) 偏差折線により、共に周防人と近親度が強い出雲人と大和人を検討したところ、大

和人は周防人に対し正のものが多く、出雲人は負のことが多いことがすぐわかつた。

12) 指数関係図示法にて周防人と他地方人との位置を検討すると平均型差の場合と同様に、周防人は大和、巨摩、備中、出雲人と一団となつており、北海道アイヌ、越中人とは相当はなれていることが判明した。

13) 三角形図示法により周防、大和、出雲、備中、北海道アイヌ人との相互関係を検討したが、これも平均型差の場合と同じ様に近親度の状態が一目瞭然とわかつた。

総 括

周防地方人は、体質人類学的に最も価値の高い緒形質の測定の結果から判断すると、我が国最高の文化をはこつていた大和人、出雲人、備中人、巨摩人等の大陸系より移住した民族や、大陸との交通が盛んであつた民族と近親度が高い事が認められた。

第十代の崇神天皇の時より、大和朝廷と関係を持ち、大和朝廷が全国統一を完成した四世紀の半ばごろまでにその勢力下に入り、栄えてきたこの地方人は、たとえ峠を越しても山陰側の方が交通の便利がよいなど、山陽と山陰の両方の影響をうけていたと考えられるが、体質人類学的研究によつても大和人、出雲人と殆ど同程度に種族的近親度が濃厚であり、又地域的に隣接し、山陽道の通行の要所にある備中人、播磨人にも近親度が大であることは興味ある事実である。

稿を終るにのぞみ、終始御指導、御校閲を賜つた恩師古屋芳雄教授及び大森暢久博士に対し、深く感謝を捧げます。またいろいろ御援助いただいた東大史料編纂所、菊地勇次郎氏、及び日医大岡部五成博士に厚く御礼申しあげます、

参 考 文 献

- 1) **Martin. R:** Lehrbuch der Anthropologie Autl, (1928).
- 2) 古屋芳雄, 宮坂五一郎: 医学統計法 (1955)
- 3) 清野謙次, 金閣文夫: 人種起源説 (1928)4
- 4) 松岡寿人: 現代人類問題研究 (1935)
- 5) 人類学, 先史学講座, 1. 2. 3. 4. 19 卷 (1940)
- 6) 防長風土記 (1957)
- 7) 都濃郡史 (1951)
- 8) 都濃郡自治史要 (1954)
- 9) 菊地勇次郎: 周防の文化史的考察 (未発表)
- 10) 古屋芳雄: Rassenkunde der Aino (1939)
- 11) 矢ヶ崎徳蔵: 民族生物学研究, 第 2 輯 (1936)
- 12) 村田四郎: 民族生物学研究, 第 2 輯 (1936)
- 13) 村田四郎: 民族生物学研究, 第 3 輯 (1937)
- 14) 古屋芳雄外: 民族生物学研究, 第 2 輯 (1936)
- 15) 古屋芳雄外: 民族生物学研究, 第 4 輯 (1937)
- 16) 加藤義治郎: 民族生物学研究, 第 5 輯 (1938)
- 17) 加藤義治郎: 民族生物学研究, 第 7 輯 (1939)
- 18) 能沢清志: 厚生科学研究 (1944)
- 19) 上田栄吉: 十全誌 (1949)
- 20) 大森暢久: 日医大誌, **17**, 6, (1950)
- 21) 高野武悦: 信州医学誌, **3**, 1, (1954)
- 22) 湯浅秀: 日医大誌, **21**, 11, (1954)
- 23) 村松稔: 民族衛生, **22**, 5, 6, (1955)
- 24) 西村義: 日医大誌, **22**, 2, (1955)
- 25) 山崎倫子: 日医大誌, **22**, 11, (1955)
- 26) 山崎浩: 千葉医学誌, **30**, 6, (1955)
- 27) 宮坂五一郎: 民族衛生, **22**, 4, (1956)
- 28) 荻野博: 日医大誌, **23**, 12, (1956)
- 29) 安方魁人: 日医大誌, **23**, 4, (1956)
- 30) 宮坂勝蔵: 日医大誌, **24**, 7, (1957)
- 31) 藤井章: 民族衛生, **25**, 2, (1959)
- 32) 岡部五成: 民族衛生, **25**, 2, (1959)
- 33) 鈴木康弘: 民族衛生, **25**, 3, (1959)
- 34) 津村大八: 民族衛生, **25**, 4, (1959)
- 35) 斎藤達郎: 民族衛生, **25**, 5, (1959)
- 36) 津村大輔: 民族衛生, **26**, 2, (1960)
- 37) 長田宗憲: 民族衛生, **26**, 4, (1960)
- 38) 文部省科学研究医学関係総合研究報告書 (1948~1953)

A Constitutional Anthropological Study of the Inhabitants of Suhō District,
Yamaguchi Prefecture, Japan

By
Masahiko ASAMI

During the period of a year and five months (May 1958-October 1959), I have from the standpoint of constitutional anthropology, made measurements of the living bodies (trunk, limbs, head, face, etc.) of 565 adult males and 325 adult females who are the inhabitants of the Suhō district of Yamaguchi Prefecture. I have made detailed observations based upon the measurement values and index values of 27 items, and have made a comparative study with those of other districts. The following is the result, although here I have restricted the comparative study to adult males.

1) The average height of the Suhō district males is 159.98cm and belongs to the "small" group according to Martin's height classification, but as a Japanese adult male they belong to the "below medium" group. Their measurements resemble those of the adult males of the districts of Tosa, Takachiho, Kaga plain, and South Noto.

2) The maximum length of the head measured 184.00mm, resembling that of the peoples of Shinshu-Iida, Izumo, and Koma, while the maximum width of the head measured 151.70mm., resembling that of Tosa, Oku-Noto, Bitchu, and Izumo.

3) The index number of the length and width of the head is 82.65, belonging to the small-head type, far exceeding the average index value of 81.31 of the district measured by Dr. Koya. This reveals the fact that the maximum length of the head is short in comparison to its maximum width. As seen in view of Martin's head classification, 44.15% of the Suhō district males belong to the small head type, and 31.86% to the medium head type. The classification curve and T.D. strongly resembles that of the adult males of Izumo, Koma, Harima, Yamato, Inaba, and Shinshu-Kami-Ina. The resemblance to the Ainu of Hokkaido and to the people of Etchū is negligible.

4) Comparing the Suhō district males with those of other districts according to the M.T.D., those of the Koma, Yamato, Izumo, Harima, Bitchu, East Saitama, and Shinshu-Iida, reveal a M.T.D. of below 5.50. This is an interesting discovery in view of the fact that the districts just mentioned all retain the history of immigration from the Asian Mainland. On the other hand, the people of Etchū and Noto who are considered to be of Ainu origin, together with the Ainu of Hokkaidō, reveal a M.T.D. of over 12.00, and the relationship is vague.

From the above data the general conclusion can be drawn that the people of Suhō district, judging from the measurement results of the various qualities of the highest value in constitutional anthropology, are highly similar to the Yamato, Izumo, Bitchū, and Koma people, descendants of immigrants from the Asian Mainland and who had boasted of the highest form of civilization in Japan, and also to the peoples who held

active communication with the Asian Mainland. The Suhō people had relations with the Yamato dynasty since the era of the tenth Emperor Sujin and went under the leadership of the Yamato dynasty by the time it completed the unification of the country around the middle of the fourth century. They thus were able to prosper, and due to communication facilities they probably received the influence of both the Sanyo and San-in sides of the mountainous area, and further by constitutional anthropological study, they show strong racial affiliation to the peoples of Yamato and Izumo. It is also an interesting fact to note that they also show a strong resemblance to the peoples of Bitchū and Harima situated along the Sanyo highway.

(From the Department of Hygiene, Nippon Medical College, Tokyo)